

平成29年度 学校評価結果  
 今年度の学校評価は、3領域において目標を設定し、具体的な実践の成果を自己評価し、学校評議員とPTA代表による学校関係者評価を行いました。  
 これを踏まえ、来年度もよりよい教育活動を実践できるよう頑張りたいと思っております。御理解・御協力ありがとうございました。

平成30年3月23日 能代市立第四小学校 校長

評価領域 学習指導

評価領域 学校経営

評価領域 教育課程・生徒指導

**重点目標** 学習指導の充実と確かな学力の向上

**重点目標** 保護者や地域住民との連携・協働の充実

**重点目標** 自信をもって力を発揮できる児童の育成

**現状** H28県学習状況調査の平均通過率は4年80.7%(県75.9)、5年77.3%(75.1)、6年76.3%(72.3)であり、校内児童アンケートで勉強が好きかの問いに肯定的な回答が90%に満たなかったのは2箇学年だった。

地域に学び、ふるさとに貢献するふるさと教育やキャリア教育を推進する上で、保護者や地域住民の協力が欠かせない。H28の保護者アンケートでは、「地域に学び、地域に貢献する活動」の肯定的回答が88.2%であったが、「保護者のPTA行事等への参加」は78.8%であった。

H28児童アンケートで「自分にはよいところがある」が2箇学年、「みんなの前で発表するのが好きだ」は1箇学年で肯定的回答が80%以下であり、まだ自己有用感・自己肯定感が不足し、力を十分発揮できない児童が見られる。

**具体的な目標**  
 ○県学習状況調査の平均通過率をどの学年も県平均以上にする。  
 ○アンケートで学習に意欲的な回答がどの学年も90%以上を目指す。

○地域住民による教育活動への参加・協力場を増やす。  
 ○保護者アンケートにおいて、保護者や地域社会との連携・協働に関する事項の肯定的な回答90%以上を目指す。

○児童一人一人が安心して生活し、自己有用感・自己肯定感をもち自分の力を発揮できる学級・学校づくりを目指す。  
 ○児童アンケートで「自分にはよいところがある」「みんなの前で発表するのが好きだ」の割合がどの学年も80%以上を目指す。

**目標達成のための方策**  
 ○校内授業研究会や授業を見合う会の充実などにより、授業改善に取り組む、授業において児童が生き生きと学び、確かな学力を身に付けることができるようにする。  
 ○テスト等により学習の定着状況を把握し、発展的学習や補充的学習を展開すると共に、TTによる個に応じた授業を充実させる。  
 ○授業以外の時間や家庭学習で基礎的・基本的な内容の定着を図る。

○児童の学校生活の様子や学習の成果を積極的に情報発信し、児童の活動に興味をもってもらう。  
 ○学区内の自治会の協力を得て、学校と地域のつながりを深める。  
 ○ふるさと教育やキャリア教育の学習の成果を発信し、地域に感謝し貢献する視点で見直し実践する。

○学級や学校行事、児童会活動などで、児童一人一人が活躍し、教師や友達に認められ、さらに地域の方にも認められる場を設定する。  
 ○教師の「一人一人のがんばりを認め、伸ばす」姿勢を徹底する。  
 ○児童の情報を把握し、その子にとって必要な支援体制を確立する。(加配養護教諭、特別支援教育支援員、生活サポート等の活用)

**具体的な取組状況**  
 ○「学び合い高め合う学習集団の育成」を目指し校内研究を推進した。  
 ・ペア、グループ、学級全体で学び合う場面を意図的に設定  
 ・互いの高まりや学びの価値を確かめる振り返り場面を設定  
 ○教師も互いに学び合い、授業改善に向けた授業研究会を行った。  
 ・校内授業研究会(算数⑤・社会①・通級指導①養教加配①)  
 ・授業を見合う会(社会③・国語②・道徳②・特活①・理科①  
 外国語①・図画工作①・生活単元①)合計②⑩  
 ※○数字は回数  
 ○毎月学習の目標を設定し、話の聞き方・話し方、家庭学習など学習の基本的習慣の徹底を図った。  
 ○単元評価問題・クリニック問題・算数問題集アイテムによる復習の機会を設定した。

○学校での活動や児童の活躍の様子を校報や学年通信等で家庭に紹介した。校報は地域自治会長にも配付した。  
 ○連絡帳や担任からの電話等により学校での出来事を伝えるなど、担任と保護者の連携を密にした。  
 ○ふるさと教育の推進のため、地域から学ぶ校外学習を積極的に行った。また、6年生が修学旅行の際に、出会った人に能代市紹介パンフレットを配る活動を行った。  
 ○運動会や学習発表会、校内マラソン大会にはたくさんの保護者・地域住民の参観・応援があった。

○朝帰りの会、授業中に教師や友達から認められる場を設定した。特に、互いの意見を尊重しながら自分の考えを発言する学級会の充実を図った。  
 ○「校舎がきれい」「あいさつがいい」「堂々と発表できる」など四小の良さを外部の人にも知ってもらおうと集会等で呼びかけた。  
 ○子どもを語る会、あかしや点検表、職員会議での見つめて欲しい子などにより、全職員で児童の様子の共通理解を図った。  
 ○特別に支援が必要な児童等に対して、特別支援学級②、通級教室、特別支援教育支援員、日本語サポートなどにより支援してきた。  
 ○加配養護教諭が校内巡視の際に気になる児童に声をかけたり、管理職・生徒指導主事・学級担任等に情報提供したりした。

**達成状況**  
 ○県学習状況調査の平均通過率は4年71.3%(県70.9%)、5年79.7%(70.7%)、6年80.2%(75.5%)であり、どの学年も県平均を上回った。  
 ○校内児童アンケートで「勉強が好きだ」の項目で肯定的回答が4箇学年が90%以上であった。また、「勉強がよく分かる」は全学年が90%以上であった。

○町探検発表会や福祉施設訪問、見守り隊感謝の集いなど、地域との連携を深める活動を実施したが、行事によっては時間帯の設定が悪いせいか、地域の方の参加が少なかった。  
 ○保護者アンケートで、「学校が地域に学び地域に貢献する活動をしていると思う」の肯定的回答は90.7%、「保護者がPTA行事や学校の参観などによく参加している」は77.5%だった。

○教育視察や学校訪問で来校した方などから、あいさつや授業に向かう姿勢がよいと認められることが増えた。  
 ○児童アンケートで「自分にはよいところがある」は1箇学年(78%)、「みんなの前で発表するのが好きだ」は、全学年で肯定的回答が80%以上であった。

**自己評価** (評価) B  
 県学習状況調査の平均通過率がどの学年も全県平均を上回ったが、学習意欲に関する意識調査では目標値の90%を上回ることができなかった学年が2箇学年あった。今年度の学習指導による取組の成果は今一歩だった。

(評価) B  
 地域との連携を図る活動や地域に貢献する活動を積極的に行ったが、十分な成果を上げたとは言えない。保護者アンケートでの「保護者・地域との連携について」は目標値の90%を達成することができた。

(評価) B  
 認められことで授業中に堂々と発表できる児童が増えてきたと感じるが、配慮が必要な児童も依然多いと感じている。アンケートでは昨年度より数値の向上が見られるが、目標値に達することが出来ない学年があった。

評価基準  
 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

**学校関係者評価と意見** B  
 目標値の「学習に対する意欲90%」は、高い数値である。学力向上の実現に向けてよく励んでる。6年生は4年の頃から比べると成績も向上している。しかし、社会科と理科で5年生の時よりも数値が劣る。また、4年生では算数が全県平均の100に達していない。全体的にはよい傾向だが、学校の評価通りBでよい。

A  
 保護者アンケートにおいて、「保護者・地域住民との連携について」は90%を達成している。「保護者のPTA行事等への参加」は、パーセントが下がったとはいっても、社会的情勢から、来たくてもこれない保護者もいることも事実である。評価はAでよい。3年生の福祉施設訪問でのお年寄りとの交流、民話クラブの施設訪問は新鮮で、喜ばれたと思う。

A  
 11月に授業を参観したが、子どもが変わったと感じた。授業に向かう教師のがんばりもすばらしかった。教師が本気になる子どもも変わると感じた。児童アンケート「みんなの前で発表するのが好きだ」で2箇学年が下がっているが、家庭状況もあり、個人差もある。あいさつ・発表力・教育視察や学校訪問者の感想から考慮するとA評価でよい。

**自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策**  
 ・20回の研究授業で教師同士が学び合い、授業改善を実現できた。今後も児童が分かる授業、できる授業を目指し、研修を推進する。  
 ・学びの楽しさを体得させ意欲的に学習に取り組めるようにすると共に、確かな学力を定着させるために個に応じた指導を充実させる。  
 ・新学習指導要領実施に向けた研修を充実させ、求められる学習指導のあり方を研究し、授業実践に生かす。

・見守り活動やラジオ体操への協力、親子が協力しての子ども七つづくりなど児童の活動への支援をお願いすると共に、地域に貢献する活動、児童の元気を地域に届ける活動を一層推進する。  
 ・保護者がPTA活動に参加・協力してもらえるように、活動のあり方を見直し、魅力あるPTA事業を計画すると共に、協力への感謝を機会ある毎に伝えていく。

・児童の自己有用感、自己肯定感をさらに高めるために、児童同士が認め合う場を設定し、地域や保護者にも発信していく。  
 ・道徳や特別活動を充実させ、進んでよい行いができるように、心を育てていく。地域における児童の活躍や貢献の場を設定し、人の役に立つ喜びを味わわせる。

